第Ⅱ部　令和5年梅雨前線豪雨

【令和５年度分】令和５年梅雨前線豪雨に関する北九州市の支援状況

（令和６年３月３１日時点）

≪人的支援≫　　短期派遣：２４名、中長期派遣：６名

１．家屋の被害認定調査に係る業務　　【危機管理室】　　派遣終了

・ 福岡県市長会の要請を受け、久留米市へ家屋の被害認定調査を行う職員を派遣。

・ 令和５年７月１５日～８月４日　計２４名

１班	７月１５日（土）～	７月１９日（水）	４名
２班	７月１８日（火）～	７月２２日（土）	４名
３班	７月２１日（金）～	７月２５日（火）	４名
４班	７月２４日（月）～	７月２８日（金）	４名
５班	７月２８日（金）～	８月　１日（火）	４名
６班	８月　１日（火）～	８月　４日（金）	４名

２．職員の中長期派遣　　【危機管理室】　　（継続中）

（１）福岡県久留米市

福岡県市長会からの要請を受け、道路・河川等の復旧業務に従事する職員の中長期派遣を実施。（令和５年１０月１日～令和６年度継続中）

・ 道路、河川等公共土木施設の復旧業務（土木職）　延べ４名（３カ月交代）
令和５年１０月１日～令和６年３月３１日

（２）福岡県東峰村

福岡県市長会からの要請を受け、道路・河川等の復旧業務に従事する職員の中長期派遣を実施。（令和５年１０月１日～令和６年度継続中）

・ 道路、河川等公共土木施設の復旧業務（土木職）　延べ２名（３カ月交代）
令和５年１０月１日～令和６年３月３１日

≪その他の支援≫　２件

１．災害廃棄物の受入れ処理　　【環境局】　　受入終了

・福岡県うきは市の災害廃棄物（可燃ごみ、可燃粗大ごみ）を受入れ、本市の日明工場、皇后崎工場で焼却。

・うきは市：令和５年８月７日～８月１８日　受入量　約５８トン

２．災害義援金の募集　　【保健福祉局】　　募集終了

・市役所本庁舎、各区役所、出張所（計１７箇所）に募金箱を設置。

・令和５年７月２５日～令和６年３月３１日：２９２，９１１円

・本市で募集した義援金は、共同募金会を通じて、被災自治体へ配分

令和５年梅雨前線豪雨被災地への中長期派遣職員報告

〔派遣先、活動期間、所属名（補職名）、氏名〕　（頁）

１　久留米市（公共土木災害復旧業務）　２１
活動期間　令和５年１０月１日～令和５年１２月３１日
所 属 名　技術監理局　技術部　検査課　係員
氏　　名　志岐　泰章

２　久留米市（公共土木災害復旧業務）　２５
活動期間　令和５年１０月１日～令和５年１２月３１日
所 属 名　上下水道局　水道部　設計課　係員
氏　　名　日髙　拓海

３　久留米市（公共土木災害復旧業務）　２９
活動期間　令和６年１月１日～令和６年３月３１日
所 属 名　都市戦略局　都市再生推進部　事業推進課　主任
氏　　名　金子　剛之

４　久留米市（公共土木災害復旧業務）　３３
活動期間　令和６年１月１日～令和６年３月３１日
所 属 名　都市整備局　道路部　道路建設課　係員
氏　　名　髙宗　昂平

５　東峰村（公共土木災害復旧業務）　３７
活動期間　令和５年１０月３１日～令和５年１２月３１日
所 属 名　都市整備局　西部整備事務所　工務第二課　係員
氏　　名　林 裕平

６　東峰村（公共土木災害復旧業務）　４１
活動期間　令和６年１月１日～令和６年３月３１日
所 属 名　港湾空港局　港湾整備部　整備課　主査
氏　　名　藤井　智靖

久留米市災害復旧支援　活動報告
～忘れかけていた達成感～

派 遣 先　　久留米市　都市建設部　公園土木管理事務所

所　　属　　技術監理局　技術部　検査課

氏　　名　　志岐　泰章

活動期間　　令和５年１０月１日　～　令和５年１２月３１日

１　はじめに

令和５年７月７日～１１日の梅雨前線豪雨により、甚大な被害を受けた久留米市からの災害派遣要請を受け、令和５年１０月から、災害復旧事業に携わることになりました。

また、北九州市から久留米市への派遣応援は今回が初めてというのもあり、久留米市長から感謝と労いの言葉を直接かけて頂いたのが強く印象に残っています。

久留米市は人口約３０万人の筑後川の恵みに育まれた自然豊かなまちで、伝統工芸やゴム産業を中心に「ものづくりのまち」として発展してきました。現在も県南地域の中心地として都市機能が充実し、ラーメンや焼きとり、フルーツなどの多彩なグルメで賑わう魅力豊かなまちです。

今回大きな被害を受けたのは久留米市田主丸町で、大規模な土石流により死者も出ています。被害直後のこのような現場復旧の道路班担当として、３ヶ月間従事しました。

田主丸町　地徳

２　現地での業務

私の業務は、被災箇所の現地調査、測量、被災写真撮影、査定図面、数量計算書等、査定設計に必要な書類作成を行う設計コンサルタントの監督及び、査定に必要となる書類を整え、査定設計書（復旧に必要な事業費算出）を作成していました。他にも被災した市道に隣接する民地への工事許可や久留米市への無償壌土の申請手続きを担当していました。

以下に３ヶ月間の活動と、作業のフローチャートを示します。

	１０月	１１月	１２月
災害査定	●――――	――――→	
復旧工事発注等			●――――……

計画準備（設計計画）	災害査定までのスケジュールを確認し、設計業務に関する準備（字図等資料提供、計画方針の決定等）。
⇩ **現地踏査**	コンサルタントと現地立会を行い、被災箇所（起終点）の確認及び資料作成に必要な調査収集を行う。
⇩ **基準点・平面測量**	コンサルタントへ指示。すべての測量基準となる基準測量を実施し、地形測量を行ってもらう。
⇩ **縦横断測量**	コンサルタントへ指示。中心杭等を基準にして地形の変化点等の距離及び地盤高を定め，縦横断図を作成。
⇩ **被災状況写真撮影**	コンサルタントへ指示。「公共土木施設災害復旧の災害査定添付写真の撮り方」に基づき、写真撮影、整理。
⇩ **計画案検討（基本事項の決定・AB表）**	河川及び道路の被災、地形・地質状況に応じた対策工の検討を行い、復旧工法を決定。
⇩ **設計図作成（仮設計画、図面作成）**	コンサルタントへ指示。決定した計画に基づき、災害申請用設計図を作成。※申請数量は図面に記載。
⇩ **災害査定**	被災状況、被災メカニズム、申請内容の読上げ及び工法検討内容を査定官、立会官へ説明。
⇩ **数量計算書修正等**	コンサルタントへ指示。査定内容の項目カットや検算にて訂正があった場合、その内容を数量計算や図面へ反映。

３　現地での業務で困難であった点や改善すべき点

災害査定（後査定）は、従来であれば査定官（国土交通省職員）・立会官（財務省職員）と共に現地で実物を見ながら説明や質疑応答を行っていましたが、今回の令和５年度より、リモート査定を実施することになりました。実例が少なく、必要データの準備に時間を要し、職員達の不安もかなり膨らんだ状態での査定でした。しかし、被災現場間の移動がなく、１日に受けられる査定が倍以上になり、どちら側にも大きな利がある取り組みであったと改めて感じています。

また、設計コンサルタントの人員不足も大きな問題だと感じました。査定資料の作成を委託されている設計コンサルタントは、他の自治体からも同様の仕事を受けており、１人分の業務量がかなり多く、苦戦している状況でした。このため、事前にコンサルタント協会や建設業協会等と調整し、市外業者などへの応援要請を更に強化しておいてもよかったのではないかと思いました。

リモート査定

４　活動を通して印象に残ったこと

私自身、土木職として北九州市に入職し、まだ４年目という経験の浅い職員ですが、今回の被災現場を目の当たりにした時、見るも無惨な景色に圧倒され身体が緊張していたのを覚えています。自然とはこんなにも恐ろしいものなのかと身をもって感じました。

そこでぜひ若手職員の方々に災害応援に積極的に参加していただきたいと思います。北九州市の通常業務とは大きく異なりますが土木に興味・関心が湧く、または加速するきっかけになると思います。また、久留米市の職員との交流も私の中で大きな財産になりました。そして、現場復旧のために地元へ説明に行った際、市民からの信頼や感謝の言葉をかけていただき、やりがいと責任感を感じられる非常に貴重な経験ができました。

５　おわりに

北九州市の防災に必要となることは、当然ながら災害後の行動についての知識を一人一人が身につけることが一番です。しかし、災害の少ない本市では災害について学ぶ機会が少なく関心が薄れているのが現状です。事実私も、今回の派遣応援があったことをきっかけに、自分で調べるようになりました。やはり課題として残るのはどのようにして周知するかだと思います。市役所や民間企業が中心となって梅雨入り前に、大雨災害の DVD 研修を行い、課内で対策案の相互伝達を図るなど、定期的に災害について考えなおす活動が必要だと感じます。

最後に、久留米市職員の皆様には、仕事面だけでなくプライベート面も大変お世話になりました。目まぐるしいほどに忙しかった３ヶ月間でしたが、体調も崩さず無事乗り切れたのも、久留米市職員の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

現在、復旧に向けての工事の着手が進んでいっているとお聞きしています。これからの復旧が無事完了することと、翌年以降の災害により大きな被害が出ないことをお祈りしております。

以上で私の活動報告を終了とさせていただきます。

久留米市災害復旧支援　活動報告

派 遣 先　　久留米市　都市建設部　公園土木管理事務所

所　　属　　上下水道局　水道部　設計課

氏　　名　　日髙　拓海

活動期間　　令和５年１０月１日　～　令和５年１２月３１日

１　はじめに

令和５年７月７日からの豪雨により、久留米市では公共施設（道路・河川・橋梁）や農業施設（農道・水路）、家屋等に甚大な被害が発生しました。

降雨状況は総雨量 567 ㎜（4 日間累積）、1 時間最大雨量 91.5 ㎜、24 時間最大雨量 402.5 ㎜、48 時間最大雨量 452 ㎜、72 時間最大雨量 565 ㎜となりました。また、中でも 1 時間最大雨量と 24 時間最大雨量は観測史上最大となりました。

実際の被害写真（一部）

2　現地での業務

私は令和 5 年 10 月 1 日から令和 5 年 12 月 31 日までの約 3 ヶ月間、久留米市の災害復旧チーム（河川班）に派遣されました。そこでは主に災害査定を受けるための資料作り（図面や設計書、設計根拠等の作成）や設計業者との打ち合わせを行いました。災害査定までの時間が限られていたので、複数の設計業者と 1 日中打ち合わせを行う日もありました。図面のチェックを念入りに行い、何度も何度も修正と打ち合わせを重ね、そして 11 月に災害査定を受けました。今回は事前に前査定を受けていたのでスムーズに災害査定は終了しました。

その後 12 月は工事の発注を行い、次の 1 月 1 日から 3 月 31 日まで派遣される方に引継ぎを行いました。

3　現地の業務で困難であった点

私は北九州市役所に入職して 4 年目であり、さらに業務は道路関係だったため、河川については知識や経験等、何もかも足りませんでした。災害査定についても一から勉強が必要であり、加えて北九州市と久留米市の業務形態の違い等にも慣れるのに時間を要しました。

積算システムも北九州市が使用しているものではありませんでしたし、あまり使い慣れていない CAD データの修正も、自分でしなければ災害査定に間に合わない状況であったためかなり苦労しました。

しかし、久留米市職員に加え、同じく災害派遣で応援に来ていた福岡市職員、北九州から一緒に派遣された同僚のおかげで業務にも慣れ、無事災害査定を乗り越えることができました。

4　活動を通して印象に残ったこと

私が久留米市に、この 3 ヶ月間災害派遣されて印象に残っていることはやはり災害査定です。今回の災害査定は後査定であったこともあり、査定官とモニター越しに申請を行いました。何度も資料を読み返し、河川班の皆さんとどのような質問が来るのかを想定しながら練習を行っていたので、緊張はしたのですが査定官の質問に対し、冷静に回答することができ、大きな指摘もなく無事に災害査定を乗り越えることができました。

5　最後に

今回この久留米市災害派遣は、私にとって非常に良い経験になりました。最初は慣れない土地で、初対面の方に囲まれて、災害派遣経験も無く、河川の知識もない私が、久留米市の役に立てるのだろうかと不安でした。しかし、周りの方たちが優しく気さくに話しかけてくれ、私がわからないところは丁寧に教えてくれたので不安の気持ちは徐々に消えていきました。

災害査定という 1 つの目標に向かって河川班、道路班、橋梁班で協力しながら準備を進めていき、無事全部の班が大きな指摘もなく災害査定を乗り越えたときはとても達成感を得ました。

最近は多人数で何かの目標に向かって努力することが、仕事でもプライベートでもありませんでしたので、懐かしくも新鮮な感じがしました。

今回の災害派遣により精神的にも肉体的にも成長できたと思います。

最後に、災害復旧チームをはじめ久留米市役所の皆様、私たちと同じく災害派遣されていた福岡市の皆様、様々な面でサポートをしていただいた北九州市危機管理室の皆様、本当にありがとうございました。

久留米市災害復旧支援　活動報告

派 遣 先　　久留米市　都市建設部　公園土木管理事務所

所　　属　　都市戦略局　都市再生推進部　事業推進課　主任

氏　　名　　金子　剛之

活動期間　　令和６年１月１日　～　令和６年３月３１日

１　はじめに

令和５年７月７日から１０日にかけての大雨により、久留米市では公共施設（道路や橋梁、河川、公園など）や農業施設（果樹園や田畑、農道、水路など）に甚大な被害が発生しました。被害状況の初期調査を行ったのち、派遣職員を含む１２名で構成された災害復旧チームが立ち上がりました。

私は、令和６年１月から令和６年３月までの期間の派遣職員で、北九州市の第二陣として派遣されました。個人的には、短期での応急給水等の経験はありましたが、今回のような中長期での災害復旧支援は経験がありませんでした。被害に遭われた地域の温度感や復旧のスピード感、この状況を解決するための現地の職員の方々の技術などを自分の目で見て学んでみたいという思いが以前からあったことから、災害復旧支援に応募し、久留米市での災害復旧に従事させていただくことになりました。

２　現地での業務

久留米市では、都市建設部公園土木管理事務所に配属となりました。配属先の主な業務は、道路や橋梁、河川、公園などの公共施設の維持管理や災害復旧対応です。北九州市で言えば、各区役所のまちづくり整備課のような部署になります。

請負工事の監督員になるのは、実に４年ぶりでした。それに加えて、北九州市では河川の業務を一度も担当したことがありませんでした。工事の制度も変わってきていることを耳にしていましたし、何より他の自治体で勝手が違うのは間違いないため、今の自分に務まるのか少し不安でした。

３　現地での活動経過

私が、派遣期間に担当した業務は、被災した河川構造物の復旧工事の設計積算及び発注者側工事監督員に関する業務でした。担当した工事（業務委託＝しゅんせつ工事、修繕工事を含む）は以下の表のとおりです。

表－１　担当工事一覧表

予算種別	起工番号	工事名称	工期
補助	河災第４号	河川災害復旧（高良川）工事	R6.2.6 ～R7.1.15
	河災第７号	河川災害復旧（冷水川外）工事	R6.2.27～R6.12.2
	河災第８号	河川災害復旧（西本川）工事	R6.1.30～R6.7.7
単災	－	災害復旧修繕（河川）0727_083	R6.3.14～R6.6.11
	－	災害復旧業務委託（河川）0727_092	R6.3.14～R6.6.11
	－	災害復旧修繕（河川）0727_080	R6.3.14～R6.6.11
	－	災害復旧修繕（河川）0718_037	R6.2.22～R6.3.22
	－	災害復旧修繕（河川）0801_057	R6.1.26～R6.6.23
	－	災害復旧業務委託（河川）0801_057_003	R6.1.26～R6.6.23

私が配属された時には、担当する「補助工事」の発注は全て完了していたため、補助工事に対する業務としては、請負業者に対する提出書類や手続きに関する指導、施工管理の指導、他工事との調整等が主な業務でした。

その中でも大変だったのは、市管理河川と県管理河川との合流部（写真－１）の調整です。工事内容としては、河川護岸の復旧がメインでしたが、河川の合流部ということもあり、三次元的な施工が求められる難しい現場でした。

県管理河川の復旧工事は、市管理河川の復旧工事よりも先行して発注されており、県は年度内竣工を予定していたことから、工期がかなり厳しい状況でした。県の施工がなんとか完了し、市のほうで掘削を進めていると、県管理河川の既存護岸の根入れが想定よりも浅く、合流部の接続にあたり、設計変更が必要になることが分かりました。それに伴って、施工範囲について県と協議する必要が生じました。今回は、県と先行して締結した覚書にも影響することから、接続箇所は市で施工することになりましたが、請負業者に現場の状況をヒアリングしながら、年度末の短い期間で県と協議して結論を出さなければいけなかったため、調整に苦労しました。

写真－１　市管理河川と県管理河川との合流部（仮復旧状況）（河災第８号）

そしてそれよりも大変だったのは、「単災」と呼ばれる、補助対象に挙がらなかったものの早期に復旧する必要のある箇所（施設）に対する業務です。

こちらに関しては、当時は調査も不十分で一から現地踏査、設計条件の整理、請負業者の選定、見積依頼、請負業者と工事内容の調整、土地登記簿の調査、地権者への説明ののちに工事発注と一連の流れすべてを行いました。

現地踏査に関しては、急こう配の崖（写真－２）を上ったり、土砂や流木が堆積した河道（写真－３）の障害物を避けながら上ったりとかなりハードな現場もありました。正直言うと、年配の方はかなりきついだろうなと感じました。若手の派遣職員が多い理由の一つでもあるのかなとその時感じたのを覚えています。

写真－２　急こう配な崖

写真－３　土砂や流木が堆積した河道

４　印象に残ったこと

久留米市職員の方々の災害復旧に対する技術力の高さや現場に対する基礎知識の多さ、復旧工法に対する理解が深かったことなどが印象深いです。毎年どこかが大雨で被災しているという話も聞きましたが、それ故のことかもしれません。災害に対する日頃の意識や姿勢が違うなと感じたのを覚えています。

次に印象に残っていることは、起工時点の担当者がそのまま監督員になり、変更の際は工事担当課から検査課までの決裁が必要だったことです。本庁契約の工事は、全て回す必要があるとのことだったので、独自の制度といってもかなり負担が大きそうだなと思いました。

５　日常生活

前情報として時間外勤務が多いと聞いていたので、当初は、「時間外勤務は多いだろうけど３か月だけだから頑張ろう」と意気込んでいました。しかし、前任の期間に災害査定や工事の発注はほとんど終わっており、気が付けばゆったりした３か月間でした。

平日の仕事終わりや週末は、同僚とサウナやラーメン巡りを楽しみました。生活に必要な店舗も車があれば快適に利用でき、なに不自由なく生活することが出来ました。

また、月に数回程度北九州市に帰省し、家族とリフレッシュしながら過ごすことが出来たので、我ながらワークライフバランスの充実した３か月間だったと思います。

６　災害支援をふりかえって

今の北九州市では、他都市に比べて災害も少なく、こういった経験ができるシーンは限られています。しかし、復旧を行うときには間違いなく、災害復旧支援の経験のある方や、体力のある若手の力が求められると思います。それぞれの経験を語り継ぐことも大事ですが、災害復旧支援に行ったメンバー間でフィードバックを行い、それぞれの体験や災害復旧の制度に対する認識、その他情報共有を行うことで、それ以降の技術継承にもつながるのではと思いました。これから求められるのは、属人的な技術継承ではなく、組織単位での技術継承だと思います。

そして、個人的に、災害復旧を行ううえで大切だと思ったのは、スピード感と安心感です。というのも、地元の方々は、今回の大雨で被災したことにより、雨や河川水位などにかなり敏感になっている様子でした。少しでも不安要素がなくなるように、いち早く施設を復旧するのに努めるのはもちろんですが、復旧の見通しの説明や挨拶、着工時の声かけなどを行うように心がけました。

７　さいごに

工事の最後を見届けることは出来ませんでしたが、今回久留米市での災害復旧に従事させていただけたことで、技術職員として大変貴重な体験をすることが出来ました。

３か月間という仕事の期間としては短い期間ではありましたが、久留米市職員の方々が温かく迎え入れてくださったので、職場にも早くなじむことができ、楽しく仕事ができました。

そして何より、公園土木管理事務所の方々には、設計積算や手続き、システムの扱い方など何も分からない私に優しくご指導いただき、大変感謝しております。

公園土木管理事務所をはじめとした久留米市職員の方々に重ねて御礼申し上げます。

久留米市災害復旧支援　活動報告

派 遣 先　　久留米市　都市建設部　公園土木管理事務所

所　　属　　都市整備局　道路部　道路建設課

氏　　名　　髙宗　昂平

活動期間　　令和６年１月１日　～　令和６年３月３１日

１　はじめに

令和５年７月豪雨の被害を受けた久留米市の災害派遣要請を受け、令和６年１月１日からの３ヶ月間、災害復旧業務に携わることとなりました。

令和５年７月７日から１０日にかけて降った雨量は４日間累計５６７ｍｍとなり、観測史上最大を記録したといわれています。

被害状況は人的被害が７名、住宅被害が約２５００棟、道路、河川被害が約８００箇所もあったとのことでした。

私は他自治体への派遣や、災害復旧業務が初めての経験であったため、経験も不十分な中で不安な気持ちもありましたが、久留米市の職員の方々をはじめ、本市と同様に他自治体から応援に来ていた職員の方々にも温かく受け入れていただき、前向きな気持ちで仕事に取り組むことができました。

２　現地での業務

私は災害復旧チームの道路班への配属となり、主な業務としては、道路被災箇所の復旧工事を中心とした、工事の積算、発注、監督業務を行いました。

道路班は久留米市職員３名と北九州市職員１名の計４名による体制で災害復旧業務を行いました。道路班では、災害査定による被災箇所１８箇所とそれ以外の被災箇所約１５箇所の対応を行いました。

下記に私が担当した現場の被災状況の写真を一部紹介します。

被災状況①

被災状況②

写真は、今回の豪雨で最も被害の大きかった地域である田主丸町の被災箇所となります。左側（被災状況①）は道路擁壁が崩れ、道路下に雨水が流れ込んだことにより、道路全体が被災しました。右側（被災状況②）は大雨でのり面が崩落したことにより、道路部分にも影響が出る形となりました。

３　現地での活動経過

私が着任した直後は、災害査定が完了した工事の発注期限が迫っていたため、担当する工事２件の発注準備を行いました。

久留米市では、本市が使用するものと異なる積算システムでの積算作業であったため、慣れるまでに少し苦労しましたが、周りの方々にサポートしていただき、工程通りに作業を進めることができました。

また、あまり使ったことのない CAD を操作する機会も多く、久留米市職員の方々にいろいろと教えていただきました。今後の業務に活かせることが多く、私自身のスキルアップにつながったと思います。

発注後は、施工業者との契約までに約１ヶ月の期間があったため、災害査定対象外の被災箇所の現地調査、地元調整及び業者への施工指示を行いました。次年度の梅雨時期が近づいているということもあり、被害が拡大しないように早急に工事を完了する必要がありました。

また、２月下旬以降は発注した工事の契約が完了したため、施工業者が工事に早期着手できるよう、現場立会や事務所での打合せを行いました。

４　活動を通して印象に残ったこと

私は今回の災害復旧活動を通して、被災現場近隣の住民の方々は一刻も早い復旧を望まれており、住民の方々のニーズに沿えるよう、スピード感を常に意識して業務に取り組むことが大切だということを改めて感じました。

私自身が本市での大規模な災害の経験がなかったこともあり、久留米市で被災現場を初めて見たときはとても衝撃を受けました。

他自治体で仕事をすることも初めての経験であったため、久留米市では毎朝始業時には朝礼、終業時には終礼が行われており、とても新鮮に感じたことが印象に残っています。また、本市とは決裁区分の専決規定が異なることも、他自治体で業務を行うなかで気づき、とても貴重な経験になりました。

５　本市の防災に必要となること

近年の梅雨は、各地で線状降水帯による被害が続いている為、本市でも大雨による被害がいつ発生してもおかしくない状況にあると考えます。仮に本市で久留米市と同様の被害が起きたことを考えた際、通常業務に加えて緊急性の高い業務が増えるため、業務を回していくための体制の確保が求められます。久留米市では土木職員の人材不足が課題とも伺いました。そのためにも人材の確保がまずは最重要になると考えます。

また、今回の災害復旧業務を経験したことで、梅雨前や大雨後は道路、河川において過去に被災した箇所やその周辺箇所に異常や変状がないかの確認は徹底して行っていく必要があると感じました。

６　さいごに

今回の災害派遣を終えて、災害復旧業務の中で多くの知識を得られたことや他自治体の職員の方々と協力して業務を進め、交流を深めることができたことは、とても貴重な経験だったと感じています。

現場の竣工を見る前に派遣期間が終了したことは心残りな部分もありますが、無事に現場が完成し、一日でも早く久留米市の災害復旧が完了することを願い、私の業務報告とさせていただきます。